

境界／ボーダーを越えて—未来の学芸員のために

美術史学会の美術館博物館委員会では、日本のミュージアム(美術館・博物館等)の現況をめぐって、2003年より毎年シンポジウムを企画しています。

今、日本のミュージアムを取り巻く状況は厳しいものです。予算の縮小やそれに伴う職員数の削減、さらには市民のニーズの多様化とそれへの応答が強く求められており、その運営において従来の方法論を踏襲するだけでは限界があります。今年のシンポジウムでは、そのような厳しい状況の中で、既存のさまざまな制約や困難を乗り越えようと努力し、新たな可能性を切り開いている学芸員の活動に焦点を当て、その可能性と課題を探り、ミュージアムの将来像を展望します。

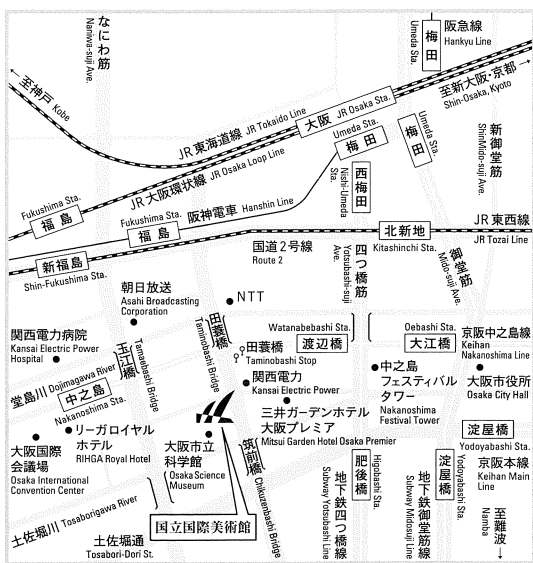
現在日本のミュージアムに求められているのは、これまでの枠を越えた連携や視点、新たな方法論です。今回焦点を当てるのは、さまざまな制約の中で、地域社会に浸透し、ゆるやかなネットワークを結び、ミュージアムの可能性を広げている個人やミュージアムの活動です。予算的にも人員的にも潤沢ではない小規模なミュージアムながら、地域社会との連携やユニークな視点で活動を続ける〈つなぎ美術館／楠本智郎、鞆の津ミュージアム／櫛野展正〉、積極的な教育普及活動と地域のミュージアムの連携によって新たなミュージアム像を描く〈東京都美術館／稲庭彩和子〉、地方公立美術館のあらたな連携を模索する〈青森県立美術館／工藤健志〉、「震災被害」を地域文化の重要な要素として展示することで地域社会にコミットする〈リアス・アーク美術館／山内宏泰〉を発表者に迎え、それぞれの活動の紹介、及び全員でのパネルディスカッションを通して、今日のミュージアムの課題と未来の可能性を探ります。

2016年4月16日(土) 10:30~16:30 国立国際美術館 地下一階講堂

参加無料 事前申込不要 定員 130名(当日先着順)

主催：美術史学会、国立国際美術館
後援：全国美術館会議、日本アートマネジメント学会、文化資源学会

アクセス



- 10:00 開場
- 10:30 ~ 10:45 基調報告 後小路雅弘 (九州大学)
- 10:45 ~ 12:00 楠本智郎 (つなぎ美術館学芸員)
櫛野展正 (キュレーター／元・鞆の津ミュージアム)
- 12:00 ~ 13:00 休憩
- 13:00 ~ 14:30 稲庭彩和子 (東京都美術館学芸員)
工藤健志 (青森県立美術館学芸員)
山内宏泰 (リアス・アーク美術館学芸員)
- 14:30 ~ 14:50 休憩
- 14:50 ~ 16:30 全体討議・質疑
楠本智郎、櫛野展正、稲庭彩和子、
工藤健志、山内宏泰
モデレーター：川浪千鶴 (高知県立美術館企画監兼学芸課長)

- ・京阪電車中之島線渡辺橋駅(2番出口)より南西へ徒歩約5分
- ・地下鉄四つ橋線肥後橋駅(3番出口)より西へ徒歩約10分
- ・JR大阪駅、阪急梅田駅より南西へ徒歩約20分
- ・JR大阪環状線福島駅、東西線新福島駅(2番出口)より南へ徒歩約10分
- ・阪神電車福島駅(3番出口)より南へ徒歩約10分
- ・地下鉄御堂筋線淀屋橋駅、京阪電車淀屋橋駅より西へ徒歩約15分
- ・JR大阪駅前より、市バス53号・75号系統で、「田蓑橋」下車、南西へ徒歩約3分

〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島4-2-55 TEL(06)6447-4680(代)

シンポジウム当日、国立国際美術館では「森村泰昌：自画像の美術史—「私」と「わたし」が会うとき」「田中一光ポスター展」「コレクション1」を開催しています